故意か輕卒か拔劍問題の主要題目は悉く「初耳だ」と聽流し人權蹂躙の否認は何事

立會調査を要求す

辯護士 布施辰治

僕等東京辯護士有志團が、神戸勞働爭議人權蹂躙問題調査の爲に下神するといふ事を發表すると同時に、司法官憲の人權蹂躙問題調査主任の職にある小山大審院檢事が、一足先に神戸勞働爭議人權蹂躙問題調査の爲め

司法省から特派

せられた事に付現角の噂もあるが僕等一行は最も盛に官民協力の相呼應たりし事を喜んだ、夫れ丈け僕等一行は神戸で小山檢事に會ひたいと思ふて居たのに、燕返しの行違ひで歸京されたのは抑何故であつたろう、そして逸早く神戸の勞働爭議に人權蹂躙の事實なしと云ふ事を發表したのは、司法省の爲にも小山檢事の爲にも甚だ惜しい輕卒であつたと思ふ、何故なら、僕等一行の調査した人權蹂躙の證據を提げて

小山大審院檢事

の調査を助けた光行檢事正に會談して見せると、夫れも初耳だ之れも初耳だと云ふ事が大分多かつたのであるが、恐らくは光行檢事正の初耳だと云はるゝ僕等一行の調査は、未だ小山大審院檢事の調査の手の及ばざりし新調査だつたろうと併ぜられる而も、夫れが所謂人權蹂躙問題の中心題目である警官の拔劍問題であつて、警察官の拔劍が豫め知事の訓示若しくは黙許かに出でたらしく、警察官が夫れに基いて、

豫め劍を研いて

人を斬つたのであるらしく、又更に傳ふるが如くんば、某警察署部內には拔劍可否硬軟兩派の論爭があつたと云ふ事實を初耳の調査外に置いたのは果して何の人權蹂躙問題調査だと云ひ得やう

湮滅の爲めの調査か

由來官吏の人權蹂躙問題調査はほんたうに人權蹂躙の事實があればあるとして、之を被害者慰安の爲に！民衆の公安の爲に！司法權の公正を期する爲めでは無くて、寧ろ當面の

警察官の辯護の

爲か？若しくは證據湮滅の爲か？所謂人權蹂躙問題調査のやうな疑のあるのは甚だ惜しい、最も小山檢事今回の調査は、假りに彼うした發表はして居るにしても、如何に辯護しやうと辯護し切れない、如何に證據を湮滅しやうと湮滅し切れない、幾人かの拔劍警官を檢擧する事の餘儀ない點に就いて、僕等一行の調査と一致して居るらしい事を信じて居るから今は多くを云はない、けれども、矢張り例に依つての

證據湮滅調査で

あつたらしい事が惜しいから、今後の爲に一言をして置く、萬一にも私の一言に異議があるなら、私は何時でも小山檢事と共に立會調査する事を辭さない、そして神戸の勞働爭議に人權蹂躙ありと云ふ僕等一行の調査報告と、其の孰れが正しいかを公平なる民衆の批判に求めたい。

前の日から劍を研いて斬った神戸の警官

行政警察規則第十五條を無視した知事內相の意見

殺人教唆の責任

一言ならぬ拾ひ讀

布施辰治

神戸勞働爭議人權蹂躙問題調査の爲め入神した、僕等東京辯護士有志團一行の前面に立つ事を避けて入れ違ひに上京したと云ふ噂を立てられて居る有吉知事は前後八時間に渉つた床次內相への長報告中、警察官拔劍の全責任は地方長官たる自分一人で引受るなどゝ云ふて居るのは

あまりに滑稽過

ぎて腹も立たない、けれども、彼の報告中に聞き捨てならぬ一言がある、強て言へば、正に殺人教唆の責任を問はねばならぬ一言がある、「二十九日三十日の警官拔劍問題は、拔劍しなければならない警官自身の安全が計られなかつた事と認めて居るが、之れ等の責任は皆地方長官たる自分一個の考へから出たもので全責任は一切自分が負ふ覺悟である自分としては十分の自信を以て遣つた事で、今後爭議があつた場合にも

此の方針は變更

しない、大臣も大體自分の取た處置に對し滿足して居られる」と云ふのが夫れだ、此の報告に由ると、神戸の警官拔劍問題は正に知事の考へから出た事であつて且つ內相の同意する處であると言はねばならない、處が、所謂警官の拔劍問題は、豫め上官の考へを以て命令し得る事でも無ければ、特に許可し得る事でも無い萬一にも上官が豫め之を命令し警官等が豫め之に備ふべく劍を研いで非常の取締に當つた結果惹起した

挫創切傷の被告

を受けて居るものがあるとしたら、明かに殺人の教唆か尠くも殺人豫備の教唆かである。何故なら警察官の拔劍は行政警察規則第十五條に依ると「得物は自身を擁護する具と心得猥に人を打擲致間敷候勿論兇暴人ありて手に餘り不得止節は格別の事」とあつて、同條に身を擁護する爲にと云ふ事は、刑法に所謂正當防衞の場合である、而して刑法の正當防衞は、全く止むを得ざる自力救濟の規定だから、當面其の急に迫れるものゝみの判斷し得る處で

豫め第三者の考

を以て指揮し得べき問題でない事は、正當防衞に關する幾多の判例が之を證して居る、然るに之を知つてか知らなくてか、有吉知事が一切の責任を負ふ覺悟で、豫め警官の拔劍を命じない迄も特に許したとしたら正さに殺人の教唆であらう。況んや僕等一行の調査に依ると、廿九日警官拔劍問題のある前二日、或る警官の劍を研いで居たのを見たと云ふ證人がある事に應徵すると、有吉知事の報告は、問ふに落ちずして語るに落ちた警官不當

新見のホーカー白粉
洗つた後の肌理まで白くする

拔劍訓示の自白

である、眞に有吉知事にして警官拔劍問題に關する一切の責任を負ふ覺悟があるなら、不確定故意の殺人教唆か尠くも殺人豫備の教唆罪を自首して、男らしく其の責に任じたらどうだ

憲兵引揚

五十二名各所屬本隊へ

勞働爭議の爲各地から派遣されて來た、憲兵五十二名は、爭議も一段落を告げたので、愈よ十六日午後三菱川崎各工場の職工退出後姫路、舞鶴、善通寺、其の他各本隊所在地に向かつて引揚げた。派遣憲兵隊長石黒中佐は語る『愈よ歸る事になりました。我々は初め申上げた通り勞働爭議に對しては全くの門外漢でありまして、只憲兵の任を盡したに過ぎません。而も我々憲兵が飛出す様な事が殆ど無かつたのは、全く嬉しい事です。職工諸君にも大分お近づきになりましたが愈々お別れです』と

收監中の

犠牲工慰問

元川崎爭議團ノ救濟委員會では目下收監中の犠牲職工に對して慰問狀を發し差入辨當の件、万一有罪と決した場合東京より多數辯護士を迎える件等を記して心配なきやう慰問する處があつた

鈴木會長送別會

愈よ本日歸京

永日に亘る爭議も一先づ打切られたので友愛會長鈴木文治氏は愈よ本十七日午後四時友愛會神戸聯合會を出發、友愛會員を初め元川崎三菱爭議團有志等多數に見送られて臨時電車に依り大阪へ向ひ同地に少憩の後同夜東上の途に就く豫定であるが十六日夜同氏の爲に有志者は盛大な送別宴を張つて送歡爭議に於ける氏の努力に感謝する處があつた、猶松岡氏等は和歌山大阪に於ける演說會出席の爲め一兩日之に遅れる豫定である

燐寸組合

勞働演說會も又々中止連發

十六日午後一時から新開地勸業館で關西聯合燐寸組合主催の勞働演說會が開催された、右は川崎、三菱爭議とは全く無關係のもので同組合を創附せんとする資本家の反省を促すべく開かれたものださうで滿員の聽衆は燐寸職工が八分を占め中にチョイ／＼新組織退大界の連中が交つてる位のものである、

定刻司會者瀬哲夫氏の開會の辭に次いで浜人會、横地、四皿宮崎關西聯合燐寸勞働組合長、山本三郎、向上會の小八木正輝和歌山市會議員、高木辯護士の各＝交々熱辯を揮つて今回起つた勞働爭議に對する資本家の態度を散々コキ卸し『中止』を喰つた辯士は二氏あつた、最後に高木辯護士が巡査の佩劍不必要論を試み『巡査佩の劍は恰度半素金の無い貧乏人が懐金を持つて市中を歩いた時には必ず何物かを買ひたくなると同樣に劍を持つてるから拔きたくなる……』で中止を喰つた同時に閉會したのは四時三十分だつた